



「災害への備え地道に強化」下野新聞掲載記事

2021/03/11

制御で
愉快だ
宇都宮
UTSUNOMIYA

2011年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震から今日で10年が経過しました。
震災発生時の状況やその後の災害対策強化を下野新聞社様に取材していただきました。

下野新聞 2021年(令和3年)3月11日(木曜日)

2021年(令和3年)3月11日(木曜日)

経済 14

2021年(令和3年)3月11日
下野新聞 経済面に掲載 →



震災後に設置した太陽光発電システム
(県内外に23カ所設置)

工場半壊で「がくぜん」教訓に



東日本大震災で外壁が崩れ落ちた協立製作所の本社屋＝2011年3月11日、宇都宮市(同社提供)

「この先どうなるのか。ただがくぜんとした」。大谷津社長は震災当時を振り返る。父の健敏前社長(現会長)の後を受けて社長に就任してからちょうど1年後が震災当日だった。宇都宮市白沢町は県内最大の震度6強を記録し、工

データ分散、社員意識向上

宇都宮の協立製作所

11日で発生から10年を迎えた東日本大震災で、県内企業も社屋が倒壊したり、操業が停止したりするなど大きな影響を受けた。配電盤や自動制御盤設計・製造の協立製作所(宇都宮市白沢町、大谷津敏之社長)は工場が半壊となり、建て替える余裕なくされた。震災後、顧客データを外務サーバーで保管するなど災害への備えを強化している。(吉田隆則)

災害への備え地道に強化

とちぎ経済

政経部経済担当 電話0268-6951060 ファクス0268-6951060

場近くの墓石は多くの墓石が倒れた。隣接する別の企業ではパニックに陥った外国人従業員の泣き血涙姿があった。築30年が経過した同社の2階建て工場は外壁が剝がれ、エアコンや天井の一部が落下した。従業員15人のうち、幸いにも社内には10人にけがはなかった。「半壊」の認定を受けた工場は鉄骨と屋根だけを残して建て替えた。完成までの半年間、被害を免れた倉庫を仮の事務所兼作業場として使用した。震災から1年後には生産体制も震災前の水準に回復した。震災後、災害対策をこれまで以上に強化した災害によるデータ損失に備え、商品の図面など重要な情報はバックアップを北海道のサーバーなどで保管する。「目の前のことを地道にコツコツ取り組んだ10年。業種転換など、先を見据えた次の一手を考えたい」と話している。



震災後に災害対策を強化して完成した新社屋(2011年10月)

これからも、(株)協立製作所は、緊急事態に対する備えにも最善の努力をおこない、配電盤・制御盤の設計・製造を通して、国家・社会に貢献できる企業を目指します。



(一社)日本配電制御システム工業会 JSIA 優良認定工場
(一社)公共建築協会評価書(盤類)取得工場
ISO9001・ISO14001 認証取得工場

株式会社 協立製作所
配電盤事業部・盤ドック事業部・防犯事業部